

バイラス罹病甘藷の塩素酸加里に對する 抗毒性に就て (豫報)

權 藤 道 夫 ・ 城 戸 典 弘

鹿兒島農林專門學校

所謂甘藷バイラス病の病原に就ては異論が多いのであるが、多くのバイラス罹病植物は塩素酸加里に對して、健全植物とは異つた抗毒性を示すことより、甘藷バイラス病が眞にバイラスであれば、その病徴顯著な時は勿論、病徴が消失した後に於ても、健病兩者間に於て塩素酸加里に對して同傾向の抗毒性の差異を示すのではなからうかとの見地に立脚して本實驗は行はれたものである。

實驗材料としては農林2號及び中國2號の健病兩者に就いて、その莖部より5枚目の葉を葉柄の莖部よ

り切り取りたるものを用い、これを塩素酸加里0.01, 0.025, 0.05, 0.1, 0.25の各%液に浸漬し、標準區のものは水道水に浸漬し、その瓶口を密封し、塩素酸加里に對する害徴の發見を時間的に觀察した。

その結果、バイラス病徴發現當時のもの並に病徴消失したもの、いづれの場合でも、農林2號、中國2號共に、健全葉に比し抗毒性弱く害徴の發現が早いことを觀察した。この事實は、甘藷バイラス病の病原がバイラスであることを證する一論據となるのではないかと思はれる。